

八街市地域防災計画の修正（素案）に対する意見と市の考え方

対応項目

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
- B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
- C：案に意見の考え方を反映・修正しなかったもの
- D：案の修正にあたり、他機関との協議が必要なもの

番号	該当箇所	意見の要旨	対応	市の考え方
1	修正概要 1 頁	2. 計画の構成 表中の「や高潮」削除。	A	・意見どおり修正します。
2	修正概要 2 頁	(2) 上位計画との整合性等 イ項 県の防災・減災の主眼とする 想定地震が、 <u>切迫性は高くない ものの大規模な被害が予想さ れる「東京湾北部地震」から、 切迫性の高い人口が集中し被 害が大きくなると想定される</u> 「千葉県北西部直下地震」に修 正されたことを踏まえ、本市に おいても想定地震として位置 付けました。 <u>なお、県がより強 い地震動を予測している八街 市直下地震の概要も市民の注 意を喚起するため明記しまし た。</u> 【理由】 以前の「東京湾北部地震」と の比較は不要。「切迫性」を発 生確率ととらえるなら、直下地 震は「千葉県北西部」も「八街 市」も同率です。	A	・次のように修正します。 「県の防災・減災の主眼とする想定 地震が、 <u>人口が集中し、被害が大き くなると想定される「千葉県北西部 直下地震」</u> に修正されたことを踏ま え、本市においても想定地震として 位置付けました。 【理由】 県は八街市直下地震を予測して いません。（下記参照）
3	震災－2	第1 想定地震 千葉県は、過去に県内に大きな被害をもたらした地震や今後の地震の発生確率等をふまえて、近い将来(今後約100年程度)県内に大きな被害をもたらす可能性の高い、東京湾北部地震、千葉県東方沖地震及び三浦半島断層群による地震の <u>三つの地震を想定した地震被害想定調査を平成19年度、大正</u>	A	次のように修正します。 「第1 想定地震 千葉県は、過去に県内に大きな被害をもたらした地震や今後の地震の発生確率等をふまえて、近い将来(今後約100年程度)県内に大きな被害をもたらす可能性の高い、東京湾北部地震、千葉県東方沖地震及び三浦半島断層群による地震の <u>三つの地震を想定した地震被害想定調査を平成19年度に、大正型関東地震、</u>

	<p><u>型関東地震、千葉県北西部直下地震及び県内各地直下の防災リスク対策用地震等の被害想定調査を平成26・27年度に実施した。これらの三つの想定地震のうち、八街市に最も大きな揺れをもたらすのは当市直下の地震だが被害をもたらすと予測されている本市の機能に大きな影響のある千葉県北西部直下地震を本計画における災害想定の対象地震とする。</u></p> <p>第2 被害想定</p> <p>参考資料として、以下に千葉県北西部直下地震による予測震度分布図と予測被害量等一覧表及び本市直下地震による建物全壊棟数図を示す。</p> <p><u>谷底平野で震度が高くなり、千葉県北西部直下地震では、ほぼ全域震度6弱で、1,830棟の建物が全半壊し全壊約230棟、負傷重傷者は約30人になるものと予想されている。しかし、八街市直下地震では、ほぼ全域震度6強（図省略、市防災アセスメント図.49）と強く、推計全壊約2,900棟、死者約200人、重傷者は約290人等と激しい被害が予想される。</u></p> <p>【理由】</p> <p>国（東北地方太平洋沖地震に関する専門調査会）は『今後、地震・津波の想定は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波を検討していくべきである。』と報告しています。</p> <p>国（中央防災会議 平成25年12月）は、市町村毎の最大震度の表を示し、八街市は6強です。</p> <p>千葉県地域防災計画は、上記の国の指針を引用した上で、各</p>	<p>千葉県北西部直下地震を想定した被害想定調査を平成26・27年度に実施した。これらの想定地震のうち、<u>千葉県が「防災・減災対策の主眼に置く地震」として位置づけた千葉県北西部直下地震を本計画における災害想定の対象地震とする。</u></p> <p><u>なお、県では平成26・27年度の地震被害想定調査において、県下全域でマグニチュード7クラスの地震が同時に発生した場合の最大震度を予測し、本市ではすべての地点で最大震度が6強となっている。マグニチュード7クラスの地震が全域で同時に発生する可能性は低いものの、市内のどの場所でも震度6強の揺れが発生する可能性があることを踏まえて耐震対策を進める必要がある。</u></p> <p><u>（注）マグニチュード7クラスの地震が、全域で同時に発生した場合の最大震度や建物被害リスクの分布図は「八街市地震ハザードマップ（平成29年2月作成）」として市のホームページ等で公表している。</u></p> <p>第2 被害想定</p> <p>参考資料として、以下に千葉県北西部直下地震による予測震度分布図と予測被害量等一覧表を示す。谷底平野で震度が高くなり、市内ほぼ全域で震度6弱となる。また、1,830棟の建物が全半壊し（うち全壊約230棟）、負傷者数は約220人（うち重傷者は約30人）になるものと予想されている。</p> <p><u>なお、八街市直下でマグニチュード7クラスの地震が発生した場合は、千葉県北西部直下地震を上回る被害が予想される。</u></p> <p>【理由】</p> <p>県の「防災リスク対策用地震」は県内全域を1kmメッシュに細分し、すべてのメッシュの直下にマグニ</p>
--	---	---

	<p>市町村直下の地震を算定し、県北西部を震源とする震度とも比較し、それらの最大震度を「防災リスク対策用震度」とし公表しています。八街市は震度6強です。</p> <p>なお、千葉県が県北西部に地震を想定するのは、県防災計画に説明されているように『人口が集中し建物が密集する地域』だからです。県北西部地震も各市町村直下地震も、その発生確率は30年以内で同率の70%です。</p> <p>八街市の地域防災計画素案は、何故か本市直下地震を省いて震源が遠い地震のみを比較検討しています。市民に誤解を与え、防災行政にゆりみを生じさせるので、同意できません。しかし、防災計画作成に遅れも許されないので、百歩譲った修正意見を提出します。</p> <p>八街市は2018年4月5日公表の防災アセスメントで『本市で最大規模の地震が発生した場合、全域で震度6強の揺れが想定されている』とし『建物全壊棟数』図を公表しています。この図のメッシュ値を集計すると全壊棟数は2917棟となります。</p> <p>印西市、習志野市、千葉市、東金市などは市独自に直下地震を算定し防災計画を作成しています。早急に震度6強に対応する防災計画を作成するよう要望します。</p>	<p>チュード7クラスの震源を設定して最大震度を予測したもので、1kmメッシュ単位での防災対策（県内のどこでも震度6強程度の可能性があることや耐震化を普及すること）に活用するものです。</p> <p>国の市町村毎の最大震度の表も同様に、首都圏全域を250mメッシュに細分し、すべてのメッシュの直下にマグニチュード7クラスの震源を設定して最大震度を予測したもので、250mメッシュ単位での防災対策（首都圏のどこでも震度6強程度の可能性があることや耐震化を普及すること）に活用するものです。</p> <p>実際の地震では、震源から遠いメッシュではこの最大震度よりも震度は小さくなり、八街市の直下でマグニチュード7クラスの地震が発生した場合には、市内全域でこの最大震度にはなりません（八街市直下の地震被害想定は行われていません）。</p> <p>また、一部の市では直下地震を想定した被害予測事業を行っていますが、県内の多くの市町村では事業を実施していません。</p> <p>多くの市町村が直下地震を想定した独自の被害予測事業を行わない理由は、地震による人的被害は建物やブロック塀の倒壊等が主な原因となるものの、地震被害予測では個々の建造物の被害は予測できず、個々の建造物の耐震診断や改修を促進する事業の方が効果があるからです。</p> <p>このため、本市を含む多くの市町村では耐震改修促進計画や地震ハザードマップを作成・公表し、また、耐震診断や改修の助成事業を実施し、耐震化を促進しています。</p>
--	--	--

4	震災－５５	<p>ウ. 妊産婦及び乳幼児等に配慮 褥婦も入れては？</p> <p>「エ. 被災者の健康状態の把握・・・に努める」 この文言賛成だが、</p> <p>第３ 避難所の運営 １. (１)を読んでも、エに書いてある健康管理に努めるのが誰かよくわからない。また、その前の健康状態の把握を誰がするのかもわからない。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・褥婦は産婦に含まれると認識しています。 ・(１)のリード文に記載のとおり、市災害対策本部の学校班と社会班が避難所自治組織と連携して実施します。
5	震災－６３ －６４	<p>第１ ３. 救護所の設置</p> <p>(５)助産があるので、担当の「第１ 応急医療活動」に印旛郡市助産師会を入れるのはどうか。</p> <p>１. 救護本部の設置 医療班は・・・推進するの中に、印旛郡市助産師会と協定を結んで入れたほうがよいと思う。</p> <p>佐倉市、成田市、我孫子もだったと思うのですが、助産師会は現在いろいろなところと協定を結び始めています。</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県助産師会との災害協定を今後協議し、合意した後に本計画に反映します。
6	震災－６６	<p>第３ (２)</p> <p>・・・要配慮者の健康状態の把握・・・を行う。</p> <p>特に高齢者はとあるが、妊産婦は人数的に非常に少ないのと、健康だから妊娠できている。動するという状況なので、本人からの訴えはないに近いと思うが、配慮が必要な人という認識をもてるような文言を入れてほしい。場合によっては、妊産婦自身が要配慮になることを知らないのでは。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>要配慮者(要介護高齢者、障がい者、妊産婦など)</u>の健康状態」に修正します。
7	震災－９３	<p>第１５節 第２ 要配慮者への対応が、福祉班、都市班になっているが、福祉班(障がい福祉課、高齢者福祉課、老人福祉センターつくし園)都市班(都市計画課、都市整備課)で、対策できるのか？</p> <p>高齢者と障害者は把握できそうだが、妊婦、産婦、できれば</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・震災-94頁に記載のとおり、都市班の役割は福祉仮設住宅の設置に関することです。また、介護等の問題は福祉班が担当します。 ・人員確保などは、別途作成する八街市避難行動要支援者避難支援全体計画、八街市福祉避難所運営マニュアル等で具体化します。なお、ミ

		<p>褥婦も対応してあげてほしい。又（３）スタッフ（人員）の確保等の確保の方法が漠然としている。</p> <p>支援品にミルクやベビーのおむつも入っているのか、この文言ではわかりにくい。</p>		<p>ルクやおむつは市で備蓄しているほか、小売店との災害協定により調達する予定です。また、国や県の災害直後に被災地に供給する救援物資の重要品目にも挙がっています。</p>
8	震災 - 105	<p>第3（4）及び助産（医療班）が加わっている。救助の実施者として医療班の健康増進課の方が把握できても、お産の介助は厳しと思う。</p> <p>そして市内でお産を扱う病院がないので、また、災害時ということで日赤に頼ることになるのだろうと思うが、日赤には重症な人がたくさんいると思うので順調な経過の産婦さんは助産所と協定を結んで助産師に対応してもらえるようにするのはどうでしょうか。</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・ここは事務担当を示しており、助産行為は医療関係者が行います。 ・千葉県助産師会や助産施設との災害協定の締結に向け、今後協議します。
9	震災 - 157	<p>第3 保健活動対策（3）にあるように、もし、助産師の派遣が必要と判断された時に助産師会に派遣依頼できるように文言と協定を結ぶのを願いたい。</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県助産師会との災害協定の締結に向け、今後協議します。
10	風水- 4	<p>火山災害の想定 (素案に追記) <u>同図は予測に基づくが、宝永噴火時の降灰分布図（内閣府富士山ハザードマップ検討委員会）による本市域の降灰の深さ3～7cmである。</u></p> <p>【理由】 冒頭、噴火降灰対策を取り上げていただき感謝申し上げます。掲載されたマップは、12ヶ月ごとのモデル予測図を重ね合わせたものです。実際の降灰（推定）分布図は、原典でご確認下さい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・意見どおり修正します。

11	風水ー 1 2	<p>《基本方針》</p> <p>・・・富士山が大規模な噴火を起した場合には最悪のケースでは、<u>2 cm 程度のを超える降灰が予想されることを踏まえ、国が集約した資料（内閣府・気象庁）によると、此の程度の降灰でも農業・道路・鉄道等に深刻な影響が及ぶ。</u></p> <p><u>内閣府は平成30年9月に「大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ」を設置し、風向等のパターン別降灰予測を元に被害想定や応急対策の検討を開始した。この検討結果に注目し、市民に対して最悪の・・・（以下3行目に続く）</u></p> <p>【理由】</p> <p>掲載図の予測マップと宝永噴火時の降灰分布図を総合すると「2 cm を超える」と表現する方が適正で、“最悪”事態を見逃さないことにも通じます。後段のワーキンググループの新しい知見整理が待たれますが、現時点では有効な検討資料として記述して良いと考えます。</p>	A	・意見どおり修正します。
12	風水ー 7 9	<p>・・・市域への多量の降灰が予想される場合は、<u>量的降灰予報等</u>・・・</p> <p>【理由】</p> <p>気象庁が定めた用語では「多量」は厚さ1mm以上、やや多量「0.1mm以上<」少量「1mm未満」です。一般市民が「多量」を数cmと誤解すると対策がチグハグになりかねません。また降灰予報は平成27年3月からバージョンアップし量的分布を図示しています。</p>	A	・意見どおり修正します。

13	その他	<p>避難場所となった所にテープ等で仕切りをつくる（書く？）ときにプライベートゾーンを設けてほしい。</p> <p>女性の着替え授乳スペースを作るように要望していこうと助産師会の動きがあります。</p> <p>いざ、災害発生時にプライベートゾーン作ってくださいと訴えても設置されないので、決まりごととしてあった方がスムーズにいくのと、被災された方々は必要性がわかっているけど、理解されていない部分もあるので。</p>	<p>B</p> <p>震災-41 ページに、避難所には、パーティション、女性専用の物干し場、更衣室、トイレ、授乳室を設けることを記載しています。</p> <p>また、八街市避難所運営マニュアルの 18 ページや 38 ページに、女性専用化粧室・更衣室・トイレ・授乳スペース・オムツ交換スペース・等を設置して、避難者に周知すると記載しています。</p> <p>◆八街市避難所運営マニュアル</p> <p>https://www.city.yachimata.lg.jp/uploaded/attachment/1035.pdf</p>
----	-----	--	---